

社団法人奈良まちづくりセンター 講演会

東日本大震災の現場の状況と今、私たちが学ぶべきこと

今瀬 政司 ((特活)市民活動情報センター 代表理事、(社)奈良まちづくりセンター理事)

1. 被災地以外の者にとっての被災現場の「現実」からの学びと出発

- ・ 2011年3月11日(金) 14時46分、巨大地震発生。巨大津波が東日本沿岸部のまちを次々と襲った。
- ・ 壊滅したまちの一つ、大槌町の役場庁舎の壁面に残る時計は、15時31分を指す。わたしは、ほぼ同時刻、大阪で震災情報を収集・発信していた(第一報15時36分発)。その時刻の瞬間を想うと言葉にならない。
- ・ 被災現場に立つと、被災地以外の多くの者たちが訪れて、この「現実」の痛みを肌(五感)で知り、分かり合い、これからの出発点にしなければいけないと強く思う。

2. 広域の被災地それぞれの被災現場の「現実」 (写真)

- ・ 震災直後、「被災物」(ガレキでなく、「被災物」という言葉を提案)の整理・運搬・処理(撤去)は急速に進んだが、その後、急速に停滞。4ヶ月経った今も、多く残る。
- ・ 被災地、被災者、応援活動、復旧・復興への歩み、暮らしや仕事の困難さなど、すべてが多様で複雑
- ・ 一言(一色)で表現することの弊害の大きさを痛感
- ・ 福島では、4ヶ月が過ぎた今でも、原発危機で「ing(現在進行形)」の極限状態が続く
- ・ 比較してはいけないと思う被害程度の大小
- ・ 被災地内外での「人」の温度差、格差、心の溝

3. ボランティア・NPOの活躍と課題(震災初期の教訓)

- ・ 進む多様な組織間の連携(NPO、行政(国・自治体・社協等)、企業、大学等)
- ・ 組織規模よりも個人の自律・機動・創造力が意味を持つ。平時の個人的つながりによる応援マッチング等
- ・ 震災当日からボランティア・NPOが活躍。特に現場肌の団体が力を発揮。
- ・ 救援ニーズの巨大さに対して、全体としては初動が遅れ、ボランティアが不足(阪神・淡路大震災を大きく下回る)。要因として、NPOのビジネス化・スタッフ有給化、ボランティア力や柔軟な機動力の低下傾向。震災直後、「混乱するから、ボランティアに行ってはいけない」、「物資を勝手に送ってはいけない」との抑制的な意見が広く浸透。その「抑制力」や管理体制が多くの潜在的なボランティアの動きにブレーキ
- ・ 上下・画一的に管理されたボランティアの組織化
- ・ 災害コーディネート機能の多様な課題。阪神・淡路大震災での教訓・ノウハウの活かしも不十分

4．災害時の応援活動と地域づくりの課題

- ・混乱するからと言って、何も動かないと、問題すらも見えてこない。個々の自発的な動き
必要に応じた連携・協働 組織化であるべき（今回、順序が逆の現象も）
- ・見えない多様な「痛み」に応える力。応援する者の「人間性」やこれまでにそれぞれの道
で「培ってきた力」が応援活動では最も重要。一人一人のその力の「適材適所」での発揮
が必要
- ・非常時の「勢い」ある対処を生むための平時の地道な「底力」づくりが必要（個人、組織、
地域に）
- ・災害の拡大と救援・復旧の課題の一つ一つには原因がある。検証が必要。
- ・「壊滅したまち」に立つと、今まで地道に積み上げてきた「住民主導や協働による地域づく
り」が白紙になったような思いを感じた。わたし自身にも問いかけられた本当の地域づく
りのあり方。
- ・非常時（災害）の検証から見えてくる「次期の非常時のあり方」と「今後の平時のあり方」

5．今後の復旧・復興と地域づくりに向けて、私たちが学び、果たすべき役割

- ・既成の概念や仕組みに捉われないこと
- ・無難な対処や問題解決の先送りの「社会体質」を直すこと
- ・NPOの存在意義（役割）の発揮と、企業・行政との協働
 - ・具体課題（役割）1：三陸沿岸の鉄道網の復興での新発想による再生
 - ・具体課題（役割）2：高台移転課題などジレンマを抱える地域の再生
 - ・具体課題（役割）3：地震災害と原発の風評被害を抱える会津若松市（福島県）のまち
づくりの応援（奈良まちづくりセンターとの交流・連携の推進等）
- ・被災地の「現実」を見、知り、忘れぬこと（応援継続の源）。
- ・「教訓」を引き継ぎ、活かすこと
- ・被災地の実情を常に知った上での自らの社会・経済活動
- ・被災地内外での温度差、格差、心の溝を小さくする努力
- ・広域な被災地の多様で複雑な人的・歴史的背景を理解し踏まえた応援活動

6．市民活動情報センターにおける私の東日本大震災での応援活動

「東日本大震災の災害と応援活動の情報」

ホームページ <http://www1m.mesh.ne.jp/~sic/>

- ・震災情報の収集・整理・発信（ホームページ、メール、報告会等）
- ・救援・復旧・復興に向けた意見・提言
- ・被災現場での応援活動（御用聞き等）、被災地への情報等のお届け
- ・三陸沿岸の鉄道網の復興への応援活動
- ・福島県内の原発被害への応援活動
- ・宮城県離島へ応援活動 など